

高吸収パッド導入による夜間排泄ケアの変革

—1人夜勤における活動量・業務量・職員意識の混合型評価—

大崎町 介護老人保健施設サンセリテのがた

発表者： 今宮 裕香（介護福祉士）

共同演者：春別府 稔仁（医師）、内野 祐輔（理学療法士）

【背景】

夜間の排泄介助は、介護職員にとって身体的・精神的負担の大きい業務であり、巡視頻度やオムツ交換回数多さは疲労蓄積の要因となる。過度の負担の増大や疲労の蓄積は利用者の安全や安眠を損ねる可能性があるため、「介護職員負担の軽減」と「利用者の安全確保」の両立は老健施設における重要課題である。当施設では50床の一般棟利用者に対して介護職員1名で夜勤対応を行うこともあり、職員の負担軽減が急務であった。

本研究は、高吸収パッドの導入が夜間介護業務の効率化および職員の身体的・精神的負担に及ぼす影響を調査した。その際、実測データと職員意識調査の双方から、導入による肯定的側面と否定的側面の両方を多角的に検証した。

【方法】

期間：2025年5月19日～8月19日

対象：50床規模の介護老人保健施設における夜勤（1人夜勤および2人夜勤：16時～翌9時半）であり、活動量計（OMRON：HJA-306）を用いて歩数・Ex歩数・距離・消費カロリー・活動指数を計測した。

条件：①従来の1人夜勤②2人夜勤③高吸収パッド導入後の1人夜勤の3群とした。加えて、1人夜勤従事者7名に対し、高吸収パッド使用に関する10項目の5段階評価アンケートと自由記述を実施し、自由記述はKH-CORDERを用いて共起ネットワーク分析により視覚的に分析した。

【結果】

1. 活動量（平均値比較）

- 従来の1人夜勤：歩数 9,921 歩, Ex 歩数 3,040, 距離 5.54km, 活動指数 610.4
- 2人夜勤：歩数 8,767 歩, Ex 歩数 2,365, 距離 4.81km, 活動指数 525.6
- 高吸収パッド導入後の1人夜勤：歩数 8,039 歩, Ex 歩数 2,082, 距離 4.37km, 活動指数 484.7

従来の1人夜勤から導入後では、歩数 19.0%減, Ex 歩数 31.5%減, 距離 21.2%減, 活動指数 20.6%減と、いずれも明確な低下を示した。高吸収パッド下では、2人夜勤よりもさらに歩数で約 8.3%低い水準を示した。

2. アンケート（5段階評価・平均値）

- | | |
|------------------|------------------------|
| ● 身体的疲労低減：4.57 | ● 精神的負担低減：4.14 |
| ● 業務の忙しさ軽減：4.71 | ● 安全面（見守り・転倒）の安心感：3.71 |
| ● 業務遂行の余裕：4.43 | ● 計画的排泄対応：4.14 |
| ● 扱いやすさ・満足度：4.71 | ● 交換把握容易性：4.43 |
| ● 業務効率化：4.71 | ● 継続意向：4.86 |

平均年齢 41.6 歳、夜勤経験 14.7 年の職員群において、特に「業務効率化」「扱いやすさ」「継続意向」が高く評価された。一方、「安全面（見守り・転倒）の安心感」は他項目よりやや低い傾向を示した。

3. 自由記述（KH-CORDER：共起ネットワーク分析）

中心語は「使用」「吸収」「パッド」であり、これを中心に「負担」「軽減」「減る」などの肯定的語群と、「尿」「失禁」「必要」「観察」などの課題語群が明瞭に分かれた。

すなわち、導入による「負担軽減・効率化」の実感とともに、「尿量・対象者選定・観察体制の必要性」といった多面的な視点が共存していた。

【考察】

高吸収パッド導入は、夜間における移動・交換などの高負荷業務を軽減し、客観的に活動量を減少させる効果を示した。職員意識調査でも身体的・精神的疲労の軽減が確認され、現場受容性が高いことが明らかとなった。

一方で、自由記述分析からは「観察の質低下」や「対象者適応の見極め」といった課題も示唆され、導入を全面化するには利用者特性を踏まえた運用ルールの整備が不可欠である。

特に、夜間1人体制下での安全担保には、「交換タイミング」「巡視頻度」「失禁リスク対象者の見極め」を組み合わせた実践指針の構築が求められる。

【結論・展望】

高吸収パッドの導入は、夜勤職員の身体的負担を約 20%軽減し、業務効率化および職員満足度

を高める有効な手段である。一方で、安全面の確保を担保するためには、対象者選定基準や巡視プロトコルの明確化が必要である。本研究は、「負担軽減」と「安全確保」の両立に向けた実践的エビデンスを示し、夜勤体制改善に資する現場発信型の知見として位置づけられる。

今後は結果に基づく改善策を講じて、介護職員への負担軽減を図り、利用者へのサービス内容の質向上を目指して対応を継続していく。